

(様式第 10)

医大病 374 号
平成 26 年 10 月 3 日

北海道厚生局長 殿

北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 島本 和明

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 1 7 丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院

3 所在の場所

〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 1 6 丁目	電話(011) 611 - 2111
----------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							有	・	無
外科と組み合わせた診療科名									
1	2	3	4	5	6	7			
8	9	10	11	12	13	14			
診療実績									

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科				
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							有	・	無
歯科と組み合わせた診療科名									
1	2	3	4	5	6	7			
歯科の診療体制									

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7			
8	9	10	11	12	13	14			
15	16	17	18	19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	6床	床	890床	938床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 8月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	238 人	302 人	490.6 人	看護補助者	5 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	8 人	21 人	24.8 人	理学療法士	17 人	臨床検査技師	53 人
薬 剤 師	46 人	0 人	46 人	作業療法士	5 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	5 人	その他	0 人
助 産 師	31 人	1 人	31.9 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	723 人	68 人	772.6 人	臨床工学技師	16 人	医療社会事業従事者	0 人
准 看 護 師	2 人	3 人	4.2 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	8 人
歯科衛生士	4 人	0 人	4 人	歯 科 技 工 士	3 人	事 務 職 員	114 人
管理栄養士	6 人	1 人	7 人	診療放射線技師	48 人	その他の職員	38 人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 6月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	8 人	眼 科 専 門 医	14 人
外 科 専 門 医	7.5 人	耳鼻咽喉科専門医	15.8 人
精神科専門医	3 人	放射線科専門医	8 人
小児科専門医	19 人	脳神経外科専門医	14.9 人
皮膚科専門医	9.1 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	11.4 人	麻酔科専門医	20.3 人
産婦人科専門医	14.7 人	救急科専門医	13.5 人
		合 計	175.2 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	719.8 人	26.6 人	746.4 人
1日当たり平均外来患者数	1868.6 人	94.2 人	1962.8 人
1日当たり平均調剤数		1382.2 剤	
必要医師数			183.4625 人
必要歯科医師数			9 人
必要薬剤師数			25 人
必要(准)看護師数			440 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	273.1m ²	鉄筋コンクリート	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 103.8 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	5 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 204.9 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	163.1 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 純粋精製装置 生化学全自動分析装置 多項目免疫化学分析装置 吸光度測定装置 遠心装置 保冷库 冷凍庫			
細菌検査室	50.4 m ²	〃	(主な設備) 全自動細菌同定感受性装置 細菌培養装置 顕微鏡 自動血液培養装置 自動抗酸菌培養装置 安全キャビネット クリーンベンチ 遠心装置 冷蔵庫 冷凍庫			
病理検査室	185.7 m ²	〃	(主な設備) 自動染色装置 包埋装置 顕微鏡 ミクロトーム 安全キャビネット ホルマリン分解装置 写真撮影装置 冷蔵庫 冷凍庫			
病理解剖室	52.3 m ²	〃	(主な設備) 解剖台 ホルマリン分解装置 写真撮影装置 冷蔵庫			
研究室	1006.8m ²	〃	(主な設備) 書棚、パソコン、プリンター、プロジェクター、スクリーン			
講義室	619.8 m ²	〃	室数	2 室	収容定員	544 人
図書室	2312.1m ²	〃	室数	3 室	蔵書数	227,565 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	61.0%	逆紹介率	44.4%
算出根拠 A: 紹介患者の数			13,382 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,320 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			785 人
D: 初診の患者の数			23,219 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外自家血注入療法	2人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髓微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ボルテゾミブ静脈内投与、メルファラン経口投与及びデキサメタゾン経口投与の併用療法 原発性ALアミロイドーシス	1 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	83人	・膿疱性乾癬	7人
・多発性硬化症	110人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	144人	・原発性胆汁性肝硬変	51人
・全身性エリテマトーデス	202人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	83人
・再生不良性貧血	31人	・混合性結合組織病	36人
・サルコイドーシス	92人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	34人	・特発性間質性肺炎	29人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	178人	・網膜色素変性症	33人
・特発性血小板減少性紫斑病	69人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	42人	・肺動脈性肺高血圧症	15人
・潰瘍性大腸炎	134人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	29人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	23人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9人
・脊髄小脳変性症	41人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	53人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	122人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	29人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16人
・後縦靭帯骨化症	94人	・肥大型心筋症	57人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	37人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	58人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	77人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	退院調整加算
特定機能病院入院基本料 ※結核:7対1	救急搬送患者地域連携紹介加算
特定機能病院入院基本料 ※精神:10対1	救急搬送患者地域連携受入加算
臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	総合評価加算
臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	データ提出加算1
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	救命救急入院料1
妊産婦緊急搬送入院加算	救命救急入院料4
診療録管理体制加算2	救命救急入院料注3に掲げる加算
急性期看護補助体制加算50対1	特定集中治療室管理料3(H26改定前の1)
療養環境加算	新生児特定集中治療室管理料1
重症者等療養環境特別加算	新生児治療回復室入院医療管理料
無菌治療室管理加算1	小児入院医療管理料3
無菌治療室管理加算2	地域歯科診療支援病院歯科初診料
緩和ケア診療加算	歯科外来診療環境体制加算
精神科身体合併症管理加算	歯科診療特別対応連携加算
精神科リエゾンチーム加算	地域歯科診療支援病院入院加算
重度アルコール依存症管理加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)
高度難聴指導管理料	脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術
外来放射線照射診療料	脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術
ニコチン依存症管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
糖尿病合併症管理料	緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)
がん性疼痛緩和指導管理料1,2	人工内耳埋込術
がん患者指導管理料1	植込型骨導補聴器移植術及び交換術
がん患者指導管理料2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
糖尿病透析予防指導管理料	経皮的冠動脈形成術
がん治療連携計画策定料1,2	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
がん治療連携管理料	経皮的冠動脈ステント留置術
肝炎インターフェロン治療計画料	経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)
薬剤管理指導料	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料1	ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
医療機器安全管理料2	埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
造血器腫瘍遺伝子検査	埋込型除細動器移植術、埋込型除細動器交換術
検体検査管理加算(IV)※改訂前の(III)	両室ペースメーカー機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き埋込型除細動器交換術
遺伝カウンセリング加算	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算	補助人工心臓
植込型心電図検査	経皮的大動脈遮断術
胎児心エコー法	ダメージコントロール手術
時間内歩行試験	腹腔鏡下肝切除術
ヘッドアップティルト試験	生体部分肝移植術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術

神経学的検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
補聴器適合検査	同種死体腎移植術
小児食物アレルギー負荷検査	生体腎移植術
内服・点滴誘発試験	膀胱水圧拡張術
センチネルリンパ節生検1併用法	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
CT透視下気管支鏡検査加算	人工尿道括約筋植込・置換術
画像診断管理加算1(医科のみ、歯科はなし)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
遠隔画像診断	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影	輸血管管理料Ⅰ
CT撮影及びMRI撮影	自己生体組織接着剤作成術
冠動脈CT撮影加算	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
大腸CT撮影加算	内視鏡手術用支援機器加算
心臓MRI撮影加算	麻酔管理料Ⅰ
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	麻酔管理料Ⅱ
外来化学療法加算1	放射線治療料専任加算
無菌製剤処理料	外来放射線治療加算
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	高エネルギー放射線治療
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	強度変調放射線治療(IMRT)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	画像誘導放射線治療加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	体外照射呼吸性移動対策加算
がん患者リハビリテーション料	直線加速器による定位放射線治療
集団コミュニケーション療法料	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
認知療法・認知行動療法2(1日につき)	病理診断管理加算2
精神科ショート・ケア	歯科治療総合医療管理料
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	歯科口腔リハビリテーション2
医療保護入院等診療料	上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)
エタノールの局所注入(甲状腺)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)
透析液水質確保加算	クラウン・ブリッジ維持管理料
一酸化窒素吸入法	CAD/CAM冠
医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	歯科技工加算
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	歯科矯正診断料
骨移植術(自家培養軟骨移植術)	顎口腔機能診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・HPV核酸検出	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・CT透視下気管支鏡検査加算	・
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	46回
部 検 の 状 況	部検症例数 17 例 12.40%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
オール北海道先進医学・医療拠点形成	島本 和明		21,250,000	③補委 文部科学省
消化管癌におけるマイクロRNAおよびエピゲノム異常の解析とその臨床応用	篠村 恭久	内科学第一講座	4,300,000	③補委 日本学術振興会
消化管間質腫瘍の悪性度を規定する長鎖non-coding RNAの探索	篠村 恭久	内科学第一講座	1,400,000	③補委 日本学術振興会
ゲノム構造異常とエピゲノム異常の包括的解析に基づく新規骨髄腫治療法の開発	石田 禎夫	内科学第一講座	1,300,000	③補委 日本学術振興会
肝細胞癌に対する三重特異性ヒト型カイロ抗体を用いた治療法の開発	佐々木 茂	内科学第一講座	800,000	③補委 日本学術振興会
炎症発癌に対する間葉系幹細胞のchemoprevention機構の解明	本谷 雅代	内科学第一講座	2,000,000	③補委 日本学術振興会
早期大腸腫瘍内のゲノム不均一性からアプローチする大腸がん起源の系統解析	山本 英一郎	内科学第一講座	1,600,000	③補委 日本学術振興会
大規模シーケンスによる除菌後胃発癌の分子病態と臨床応用	鈴木 亮	内科学第一講座	1,600,000	③補委 日本学術振興会
蛋白脱アセチル化酵素SIRT1の核移行誘導による心不全治療の開発	丹野 雅也	内科学第二講座	1,100,000	③補委 日本学術振興会
ミトコンドリア透過性遷移孔を制御する蛋白キナーゼ系の解明	三浦 哲嗣	内科学第二講座	900,000	③補委 日本学術振興会
血管内皮機能と血圧制御における脂肪酸結合タンパクの役割解明	古橋 真人	内科学第二講座	800,000	③補委 日本学術振興会
2型糖尿病による左室拡張機能障害の分子機序	神津 英至	内科学第二講座	1,600,000	③補委 日本学術振興会
肺コレクチンが有する急性肺障害制御機能の臨床応用化への橋渡し	高橋 弘毅	内科学第三講座	1,000,000	③補委 日本学術振興会
STn synthaseを標的とした転移性胃癌に対する新規治療法の開発	佐藤 康史	内科学第四講座	1,200,000	③補委 日本学術振興会
フリーラジカルおよび酸化的DNA損傷修復遺伝子MUTYHを介した肝発癌機序の解明	宮西 浩嗣	内科学第四講座	1,300,000	③補委 日本学術振興会
EUS-FNAで採取した分枝腺管型IPMNの嚢胞内溶液のプロテオーム解析	林 毅	内科学第四講座	900,000	③補委 日本学術振興会
急性骨髄性白血病に対する新規ミサイル療法の開発	瀧本 理修	内科学第四講座	800,000	③補委 日本学術振興会
HHIP KOストローマ細胞を用いたドナー由来リンパ球インビトロ増幅法の開発	井山 諭	内科学第四講座	1,200,000	③補委 日本学術振興会
ナローバンドUVBによる制御性T細胞の誘導を介したGVHDに対する新規治療の開発	佐藤 勉	内科学第四講座	1,500,000	③補委 日本学術振興会
ChIPSeqによる多発性骨髄腫に対するBCL9関連新規治療標的分子の網羅的探索	高田 弘一	内科学第四講座	2,100,000	③補委 日本学術振興会
腫瘍細胞指向性新規超音波造影剤を用いた膵癌診断法の開発	加藤 淳二	内科学第四講座	900,000	③補委 日本学術振興会

小計21件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MDS進展における酸化的DNA傷害の意義とその修復を目論んだ鉄キレート療法の確立	小船 雅義	内科学第四講座	900,000	補委	日本学術振興会
慢性移植片対宿主病における調節性T細胞のBH3プロファイリング	河野 豊	内科学第四講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
神経変性疾患に対する骨髄幹細胞移植による新規治療法開発の基礎研究	下濱 俊	神経内科学講座	3,400,000	補委	日本学術振興会
脳卒中医療と福祉従事者への卒前・卒後教育の地域間格差を克服する生涯教育の開発	齊藤 正樹	神経内科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
幹細胞を中心とした細胞供給システムの解明	鈴木 秀一郎	神経内科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
神経変性疾患モデルにおける神経免疫システムの解析と治療応用の検討	松村 晃寛	神経内科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
ヒト小型肝幹細胞移植の臨床応用に向けた基盤的臨床前研究	平田 公一	外科学第一講座	7,300,000	補委	日本学術振興会
超冷却プログラムによるヒト小型肝細胞バンクとハイブリットマウス量産に向けた研究	水口 徹	外科学第一講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
大腸癌間質に着目した再発リスクに関わるバイオマーカーの探索	古畑 智久	外科学第一講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
膵頭十二指腸切除術後胃排泄遅延の予防・治療を目的とした介入研究	木村 康利	外科学第一講座	900,000	補委	日本学術振興会
膵がんに対するがん幹細胞標的ペプチドワクチン療法の開発	平田 公一	外科学第一講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
フロートラックビジリオシステムによる肝切除術中モニタリングの有用性の検討	目黒 誠	外科学第一講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
膵星細胞特異的な遺伝子制御による膵再生の促進	太田 盛道	外科学第一講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
抗血栓性を有する脱細胞化小口径血管の解析と小口径人工血管への応用	船本 誠一	心臓血管外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
脱細胞化組織の特性評価と機能化	根岸 淳	心臓血管外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
骨粗鬆症にともなう慢性疼痛の病態解明	射場 浩介	整形外科科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
三次元関節運動ロボットシステムを用いた距骨下関節の生体力学的研究	渡邊 耕太	整形外科科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞の移植免疫における基礎解析	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
脳神経外科ナビゲーション手術でのブレインソフト補正ソフトウェアの開発	三國 信啓	脳神経外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性網膜炎の発症機序の解明	大黒 浩	眼科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
機能的アッセイによる悪性黒色腫の腫瘍関連遺伝子の同定と解析	山下 利春	皮膚科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
メラノサイト・ケラチノサイト共培養系を用いた細胞間メラノソーム転送機構の解析	肥田 時征	皮膚科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌に対する再発予防がんワクチン療法の確立	北村 寛	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
前立腺がん幹細胞の同定と特異的ながんワクチン療法の樹立	舛森 直哉	泌尿器科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
腎移植拒絶反応におけるHSP90の関与についての研究	田中 俊明	泌尿器科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨髄幹細胞移植による海綿体神経の保護・再生と勃起機能の温存	高柳 明夫	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
膀胱がんにおける治療標的となり得るがん関連遺伝子の解析および転移予測指標の確立	西山 直隆	泌尿器科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
筋層浸潤性膀胱癌の浸潤能に関わる遺伝子解析と新規治療法の開発	井上 隆太	泌尿器科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜における粘膜上皮-免疫細胞相互作用のEPIMMUNOME解析	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	4,200,000	補委	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜におけるロイコトリエンE4受容体-P2Y12受容体の発現と役割	白崎 英明	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
III型インターフェロン遺伝子多型解析を用いた上気道疾患制御戦略個別化の試み	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
濾胞ヘルパーT細胞を介したIgE産生のマスタープランとその抑制経路の研究	関 伸彦	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
粘膜上皮と上皮内樹状細胞およびM細胞の相互作用制御による抗原認識機構の調節	黒瀬 誠	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
上皮細胞極性制御因子とhippo経路を介した咽頭がん浸潤・転移機構の解析	近藤 敦	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜上皮を用いた呼吸器ウイルス感染に対する新規治療戦略の検討	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,900,000	補委	日本学術振興会
小児咽頭扁桃における抗原提示細胞の機能解析に基づくDDSを介した新たな治療戦略	小笠原 徳子	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
ヒト舌扁桃におけるインフラマソーム活性化機構の解析	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
脳を育てるうつ病治療:中枢-末梢両面からの脳神経回路網修復促進機構の解明	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
顆粒球コロニー刺激因子による精神疾患への細胞治療の開発	吉永 敏弘	神経精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の社会機能回復-薬物・細胞併用療法は言語・共感性の脳回路を修復するか-	鶴飼 涉	神経精神医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
広汎性発達障害におけるメタボリック症候群予測マーカーの探索	館農 勝	神経精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経新生と血小板機能の接点に着目したアルコール関連気分障害の新規診断マーカー開発	石井 貴男	神経精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
早期に臨床応用が可能な放射線増感剤の研究	坂田 耕一	放射線医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
分子生物学的マーカーを用いた前立腺癌放射線治療後の有害事象予測	染谷 正則	放射線医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
大きく不定形な動脈瘤に対する機能温存塞栓術の開発	廣川 直樹	放射線医学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
早期に臨床応用が可能な放射線増感剤~PARP阻害剤の研究	堀 正和	放射線医学講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
視床皮質ニューロンのトランスクリプトーム解析による吸入麻酔薬の作用機序の解明	山蔭 道明	麻酔科学講座	3,600,000	補委	日本学術振興会
TACRI遺伝子エピジェネティック修飾解析を用いた麻酔による嘔吐発症機序の解明	杉野 繫一	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
神経障害性+A74:A88疼痛における骨髄由来ミクログリアを介した治療戦略	新山 幸俊	麻酔科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
内皮グリコカリックスの障害および麻酔薬による保護作用の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
デスフルランはなぜ術後認知機能低下を防ぐのか:高齢者の細胞骨格関連遺伝子の解析	山蔭 道明	麻酔科学講座	1,900,000	補委	日本学術振興会
肺血症時の神経筋伝達能に関する病態生理の解明と有効な治療法の確立	新谷 知久	麻酔科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
エビゲノム網羅関連解析による術後悪心嘔吐の性差の機序解明	早瀬 知	麻酔科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
亜硝酸塩ポストコンディショニングによる心筋保護作用とその分子機序の解明	平田 直之	麻酔科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
慢性疼痛による不快情動に対する骨髄由来ミクログリアを介した新規治療戦略	澤田 敦史	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
レミマゾラムによる炎症性肺疾患の新しい麻酔戦略	岩崎 創史	麻酔科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
母集団PK/PD解析に共変量として遺伝子多型を加味した小児用TCIの新規開発	名和 由布子	麻酔科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
敗血症病態におけるスガマデクスによる筋弛緩拮抗機序の解明と臨床現場への提言	高橋 和伸	麻酔科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
超音波造影剤による新たな神経ブロック法の確立	佐々木 英昭	麻酔科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
敗血症性心機能障害に対する亜硝酸塩の心保護作用とその分子機序の解明	川口 亮一	麻酔科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会
抗IAP抗体スクリーニングアレイを用いた癌診断法の構築	渡邊 直樹	臨床検査医学講座	3,600,000	補委	日本学術振興会
自己抗体の発現パターンによる骨髄不全症候群の病型分類	栗林 景晶	臨床検査医学講座	800,000	補委	日本学術振興会
NADPHオキシターゼとスタニオカルシンを用いた乳癌の新規転移マーカーの開発	田中 真樹	臨床検査医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺癌における幹細胞複製分子の発現解析と新規治療標的への応用	小林 大介	臨床検査医学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
網羅的遺伝子発現解析に基づく食道癌化学放射線療法感受性予測法の開発	大沼 啓之	臨床検査医学講座	1,900,000	補委	日本学術振興会
有機リン中毒性痙攣に対するアトロピンおよびプラリドキシムの治療的効果の実験的検証	成松 英智	救急医学講座	600,000	補委	日本学術振興会
口腔がんに対する新規がんペプチドワクチン療法の基礎的・臨床的研究	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	1,900,000	補委	日本学術振興会
口腔のがん幹細胞を標的とした新規がんワクチン開発	平塚 博義	口腔外科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
外傷性脳損傷者の復職指導に関する研究ー「職業の認知的要求尺度」作成の試みー	石合 純夫	リハビリテーション医学	600,000	補委	日本学術振興会
クロトー遺伝子が皮下脂肪織および皮膚創傷治癒に及ぼす影響について	山内 誠	形成外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
ケロイドにおけるMFAP5の機能解析と新規治療薬の開発	池田 佳奈枝	形成外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
拡散テンソル画像による神経筋疾患の非侵襲的病勢評価方法	畠中 正光	放射線診断学	700,000	補委	日本学術振興会
ゲノム情報+G97+A98:A105+A98:A106+A98:A107+G97+A9+A98:A108	前佛 均	道民医療推進学講座	4,300,000	補委	日本学術振興会
骨髄微小環境における骨髄腫細胞と単球及び間葉系細胞との相互作用の解析	池田 博	道民医療推進学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
がん登録からみたがん診療が「トライン」の普及効果に関する研究-診療動向と治療成績の変化	平田 公一	外科学第一講座	23,000,000	補委	厚生労働省

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
遺伝子多型解析による乳癌ホルモン療法の有効性及び副作用予測診断システムの確立	前佛 均	道民医療推進学講座	14,700,000	補委	厚生労働省
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	舛森 直哉	泌尿器科学講座	700,000	補委	東京大学
双極性障害の原因神経回路の解明	鵜飼 涉	神経精神医学講座	4,500,000	補委	理化学研究所
再生医療技術を用いた四肢の拘縮性偽関節の治療に関する研究	和田 卓郎	道民医療推進学講座	50,000	補委	奈良県立医科大学
介護家族と介護職における主観的ウェルビーイングの向上をめざす心理介入的アプローチ	本間 真理	リハビリテーション医学講座	300,000	補委	北翔大学
胎児異常を診断された女性に対する妊娠期から育児期への助産学的アプローチの検討	林 卓宏	産婦人科学講座	200,000	補委	北海道大学
三重特異性抗体を用いた多発性骨髄腫に対する新領域抗体療法の開発	石田 禎夫	内科学第一講座	240,000	補委	東京大学
非淋菌性尿道炎に関わる細菌およびウイルスの疫学、治療に関する総括的研究	高橋 聡	泌尿器科学講座	300,000	補委	産業医科大学
乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア:臨床応用をめぐる縦断的研究	本間 真理	リハビリテーション医学講座	100,000	補委	日本女子大学
全エクソソームによる大腸癌の染色体不安定性の原因となる新規遺伝子の同定	山本 英一郎	内科学第一講座	100,000	補委	名古屋市立大学
機能性RNA統合解析による日米欧の胃・大腸発癌の分子疫学的解明と臨床応用・癌予防	能正 勝彦	内科学第一講座	500,000	補委	聖マリアンナ医科大学
幹細胞抗原特異的ワクチン療法の開発に向けた肉腫幹細胞の同定と免疫学的特性の解明	和田卓郎	道民医療推進学講座	750,000	補委	(独)国立がん研究センター
平成24年度農林水産省委託事業	齋藤 重幸	内科学第二講座	5,950,000	補委	京都府立医科大学
新規バイオマーカー探索としての大腸癌・大腸锯齿状病変のゲノムワイドDNAメチル化とmicroRNA発	能正 勝彦	内科学第一講座	739,000	補委	科学技術振興機構
(シース 顕在化タイプ) 腫瘍細胞指向性を高めた超音波造影ナノパーティクルの開発	加藤淳二	内科学第四講座	2,800,000	補委	科学技術振興機構
平成25年度子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	遠藤 俊明	心臓血管外科学講座	470,560	補委	北海道大学

小計19件

計112件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Saito M	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Pharyngeal cancer surveillance using narrow band imaging during conventional upper gastrointestinal endoscopy.	Digestion. 2013;88(4):229-34.
2	Aoki Y	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Correction: Genomic vulnerability to LINE-1 hypomethylation is a potential determinant of the clinicogenetic features of multiple myeloma.	Genome Med. 2013 Oct 11;5(10):88.
3	kato N	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Cancer detection by ubiquitin carboxyl-terminal esterase L1 methylation in pancreatobiliary fluids.	World J Gastroenterol. 2013 Mar 21;19(11):1718-27.
4	Yamashita K	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Pyogenic granuloma of the small bowel.	Endoscopy. 2013;45 Suppl 2 UCTN:E9-10.
5	Shimizu Y	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Necessity of early intervention for IgG4-related disease--delayed treatment induces fibrosis progression.	Rheumatology (Oxford). 2013 Apr;52(4):679-83.
6	Tabeya T	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	A case of angioimmunoblastic T-cell lymphoma with high serum VEGF preceded by RS3PE syndrome.	Mod Rheumatol. 2013 Dec 2.
7	Tabeya T	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	The role of cytotoxic T cells in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis, the so-called Mikulicz's disease.	Mod Rheumatol. 2014 Mar 4. [Epub ahead of print]
8	Yamamoto M	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Mechanisms and assessment of IgG4-related disease: lessons for the rheumatologist.	Nat Rev Rheumatol. 2014 Mar;10(3):148-59.
9	Watanabe S	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	Conditioned mesenchymal stem cells produce pleiotropic gut trophic factors.	J Gastroenterol. 2014 Feb;49(2):270-82.
10	Adachi Y	Department of Gastroenterology, Rheumatology and Clinical Immunology	The effect of IGF-I receptor blockade for human esophageal squamous cell carcinoma and adenocarcinoma.	Tumour Biol. 2014 Feb;35(2):973-85.
11	Kuno A	第二内科	Resveratrol improves cardiomyopathy in dystrophin-deficient mice through SIRT1 protein-mediated modulation of p300 protein.	J Biol Chem 288:5963-5972, 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Yoshida H	第二内科	Comparative effects of telmisartan and valsartan as add-on agents for hypertensive patients with morning blood pressure insufficiently controlled by amlodipine monotherapy.	2014 Mar;37(3):225-31.
13	Kouzu H	第二内科	Inflammatory Myofibroblastic Tumor of the Heart.	Circ J 2014;78(4):1006-8
14	Miki T,	第二内科	Diabetic cardiomyopathy: pathophysiology and clinical features.	Heart Fail Rev 18: 149-166, 2013
15	Tanno M	第二内科	Reversal of metabolic shift in post-infarct-remodelled hearts: possible novel therapeutic approach.	Cardiovasc Res 97: 195-196, 2013
16	Ishimura S	第二内科	Circulating levels of fatty acid-binding protein family and metabolic phenotype in the general population.	PLoS One. 2013 Nov 20;8(11):e81318.
17	Hayashi N	第三内科	Detection of N-glycosylated gangliosides in non-small-cell lung cancer using GMR8 monoclonal antibody.	Cancer Sci 104, 2013
18	Takahashi M	第三内科	Computed tomography-based centrilobular emphysema subtypes relate with pulmonary function.	Open Respir Med 7, 2013
19	平川 昌宏	第四内科	Fucosylated TGF- β receptors transduces a signal for epithelial-mesenchymal transition in colorectal cancer cells.	Brit j Cancer 2013.
20	石渡 裕俊	第四内科	Newly designed plastic stent for endoscopic placement above the sphincter of Oddi in patients with malignant hilar biliary obstruction.	Dig Endosc 2013;25:94-99.
21	石渡 裕俊	第四内科	Niitsu Y. Treatment of pancreatic fibrosis with siRNA against a collagen-specific chaperone in vitamin A-coupled liposomes.	Gut 2013;62:1328-1339.
22	平川 昌宏	第四内科	A phase II study of neoadjuvant combination chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1 for locally advanced resectable gastric cancer: nucleotide excision repair (NER) as potential	Cancer Chemoth Pharm 2013;71:789-797.
23	田仲 信吾	第四内科	Increased hepatic oxidative DNA damage in patients with nonalcoholic steatohepatitis who develop hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol 2013 48:1249-1258.
24	石渡 裕俊	第四内科	Phenol-based endoscopic ultrasound-guided celiac plexus neurolysis for East Asian alcohol-intolerant upper gastrointestinal cancer patients:A pilot study.	World J Gastroenterol 2014;20:10512-10517

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
25	岡川泰	第四内科	Successful Treatment with Entecavir for Reactivation of Hepatitis B Virus Following Systemic Chemotherapy in a Hepatitis B Surface Antigen-negative Patient with Colorectal Cancer.	Internal Med 2014;53:1759-1762
26	平山 泰夫	第四内科	Long-term survey of survival time, histological transformation, and secondary malignancies in Japanese patients with advanced-stage follicular lymphoma in the rituximab era:	Int J Hematol 2014:in press.
27	井山 諭	第四内科	Narrowband ultraviolet B phototherapy ameliorates acute graft-versus-host disease by a mechanism involving in vivo expansion of CD4+CD25+Foxp3+ regulatory T cells.	Int J Hematol 2014;99:471-476.
28	橋本 亜香利	第四内科	Combination Chemotherapy of Azacitidine and Cetuximab for Therapy-Related Acute Myeloid Leukemia following Oxaliplatin for Metastatic Colorectal Cancer	Case Rep Oncol. 2014 May-Aug; 7(2): 316-322.
29	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Preoperative liver function assessments to estimate the prognosis and safety of liver resections.	Surg Today. 2014; 44: 1-10.
30	山内 理香	神経内科	Respiratory insufficiency with preserved diaphragmatic function in amyotrophic lateral sclerosis.	Intern Med. 2014;53(12):1325-31.
31	久原 真	神経内科	Long-term clinical and radiological improvement of chronic acquired hepatocerebral degeneration after obliteration of portosystemic shunt: Report of a case	J Neurol Sci. 2014 Aug 15. pii: S0022-510X(14)00540-1.
32	松村 晃寛	神経内科	Temporal changes of CD68 and $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor expression in microglia in Alzheimer's disease-like mouse models	Journal of Alzheimer's Disease. 2014, in press
33	藤倉 舞	神経内科	Oculopharyngeal muscular dystrophy with marked clinical fluctuations mimicking myasthenia gravis: A case report	Neurol Clin Neurosci. 2014, in press
34	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Preoperative liver function assessments to estimate the prognosis and safety of liver resections.	Surg Today. 2014; 44: 1-10.
35	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Prognosis and Predictors of Surgical Complications in Hepatocellular Carcinoma Patients With or Without Cirrhosis after Hepatectomy.	World J Surg. 2013;37(6):1379-87.
36	Nakamura Y, Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Preoperative hepatocyte transplantation improves the survival of rats with non-alcoholic steatohepatitis-related cirrhosis after partial hepatectomy.	Cell Transplant. 2013 Jun 13. [Epub ahead of print]
37	Meguro M, Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Continuous monitoring of central venous oxygen saturation predicts postoperative liver dysfunction after liver resection.	Surgery. 2013;154:351-62.

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	Kyuno D, Kimura Y	Dept. of Surgery I	Pancreaticoduodenectomy for biliary tract carcinoma with situs inversus totalis: difficulties and technical notes based on two cases.	World J Surg Oncol. 2013;11(1):312.
39	Meguro M, Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Highest intraoperative lactate level could predict postoperative infectious complications after hepatectomy, reflecting the Pringle maneuver especially in chronic liver disease	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Jan 27. doi: 10.1002/jhbp.87.
40	Harada K, Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Prediction of postoperative liver failure and evaluation of modified criteria for liver resection with computed volume analysis	Hepatogastroenterology 2014 (in press).
41	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	New technique of extracorporeal hepatic inflow control for pure laparoscopic liver resection.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 (in press).
42	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	The impact of aging on morbidity and mortality after liver resection: a systematic review and meta-analysis.	Surg Today. 2014 Feb 14. [Epub ahead of print]
43	Ishii S, Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Propensity score analysis demonstrated the prognostic advantage of anatomical liver resection in hepatocellular carcinoma.	World J Gastroenterol. 2014; 20 (12): 3335-42.
44	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Saline injection method for facilitating the liver hanging maneuver during hepatectomy for a large right liver tumor.	J Am Coll Surg. 2014 Aug;219(2):e11-4. doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2014.06.011.
45	Mizuguchi T	Dept. of Surgery I	Role of Branched-Chain Amino Acids in Cellular and Organ Damage: The Prognostic Significance of the Preoperative Branched-Chain	Branched Chain Amino Acids in Clinical Nutrition: Volume 2, Nutrition and Health. DOI
46	Kutomi G	Dept. of Surgery I	Human endoplasmic reticulum oxidoreductin 1- α is a novel predictor for poor prognosis of breast cancer	Cancer Sci 2013;104: 1091-6.
47	Takamaru T, Kutomi G	Dept. of Surgery I	Use of the dye-guided sentinel lymph node biopsy method alone for breast cancer metastasis to avoid unnecessary axillary lymph node dissection.	Exp Ther Med 2013; 7: 456-460
48	Minatoya M, Kutomi G	Dept. of Surgery I	Relationship of serum isoflavone, insulin and adiponectin levels with breast cancer risk.	Breast Cancer 2013; Epub
49	Minatoya M, Kutomi G	Dept. of Surgery I	Equol, adiponectin, insulin levels and risk of breast cancer.	Asian Pac J Cancer Prev 2013; 14: 2191-2199.
50	Toshiro Ito	心臓血管外科	Infradiaphragmatic malperfusion of acute aortic dissection associated with previous abdominal aortic aneurysm repair	Surgery Today 2013.09;43(9):1019-1024.

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Kazutoshi Tachibana	心臓血管外科	Novel intraoperative evaluation for mitral valve regurgitation: retrograde cardioprotective beating test	European Journal of Cardio - Thoracic Surgery 2013.11;44: 375-376.
52	Toshiro Ito	心臓血管外科	Acute Gallbladder Necrosis in a Patient with Acute Type B Aortic Dissection	Annals of Vascular Diseases 2013.11;6(4):748-750.
53	Toshiro Ito	心臓血管外科	Esophago-Pleural Fistula Caused by Compression Necrosis In a Patient With Acute Type B Aortic Dissection	Aorta 2013.12;1(6):283-285.
54	Wanibuchi M	Dept. of Neurosurgery, Sapporo Medical University School of Medicine	Cerebrovascular high-flow bypass for skull base pathologies.	J Vasc Med Surg 1:2, 2013.
55	Wanibuchi M	Dept. of Neurosurgery, Sapporo Medical University School of Medicine	Densely calcified atypical choroid plexus papilloma at the cerebellopontine angle in an adult.	J Neurol Surg Rep 74: 77-80, 2013
56	Suzuki K	Dept. of Neurosurgery, Sapporo Medical University School of Medicine	Discrepancy between voluntary movement and motor-evoked potentials in evaluation of motor function during clipping of anterior circulation aneurysms.	World Neurosurg 2013 Sep 11 [Epub ahead of print]
57	Suzuki K	Dept. of Neurosurgery, Sapporo Medical University School of Medicine	A new brain-shift model for neurosurgery with fronto-temporal craniotomy	JSM Neurosurg Spine 2(5): 1040
58	Kamasaki H.	小児科	A case of Graves' disease diagnosed in the course of bilateral carotid arteries stenoses (Moyamoya disease); a case report and review of literatures.	Clin Pediatr Endocrinol. 22:39-44,2013
59	Hatakeyama N.	小児科	Multiple intracranial tumors in Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 97:441-442, 2013
60	Hori T.	小児科	Bif-1 haploinsufficiency promotes chromosomal instability and accelerates Myc-driven lymphomagenesis via suppression of mitophagy.	Blood. 121:1622-32, 2013
61	Yamamoto M.	小児科	Candida krusei arthritis in a boy with acute lymphoblastic leukemia.	J Pediatr Infect Dis. 8:43-47, 2013
62	五十嵐敬太	小児科	顆粒球コロニー刺激因子併用治療期間短縮ビンクリスチンドキシソルビシン-シクロフォスファミド/イホスファミド-エトポシド抗体療法で治療した限局型ユーイング肉腫ファミリー腫瘍の6例	日小血・がん学誌. 50:592-597,2013
63	Hirakawa S.	小児科	Marked induction of matrix metalloproteinase-10 by respiratory syncytia virus infection in human nasal epithelia cells.	J Med Virol. 85:2141-150, 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	Hida T, Yamashita T	Department of Dermatology, Sapporo Medical University, Sapporo, Japan.	Pigmented mammary Paget's disease presenting with dermoscopic features of multiple dots	Australas J Dermatol 2013, doi: 10.1111/ajd.12086.
65	Ikeda K	形成外科	Resveratrol inhibits fibrogenesis and induces apoptosis in keloid fibroblasts	Wound Repair Regen. 2013;21(4):616-23
66	Yotsuyanagi T	形成外科	Double combined Z-plasty for wide-scar contracture release.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2013 ; 66: 629-33.
67	Takahashi S	Sapporo Medical University, Department of Urology	Antimicrobial susceptibility and penicillin- binding protein 1 and 2 mutations in Neisseria gonorrhoeae isolated from male urethritis in Sapporo, Japan.	J Infect Chemother 19; 50-56, 2013.
68	Takahashi S	Sapporo Medical University, Department of Urology	A randomized clinical trial to evaluate the preventive effect of cranberry juice (UR65) for patients with recurrent urinary tract infection.	J Infect Chemother 19; 112-117, 2013.
69	Takahashi S	Sapporo Medical University, Department of Urology	Clinical efficacy of sitafloxacin 100mg twice daily for 7 days for patients with non- gonococcal urethritis.	J Infect Chemother 19; 941-945, 2013.
70	Hiyama Y	Sapporo Medical University, Department of Urology	Significance of anaerobic bacteria in postoperative infection after radical cystectomy and urinary diversion or reconstruction.	J Infect Chemother 19; 867-870, 2013
71	Kyoda Y	Sapporo Medical University, Department of Urology	Adrenal hemorrhagic pseudocyst as the differential diagnosis of pheochromocytome —A review of the clinical features in cases with radiographically diagnosed pheochromocytoma.	J Endocr Invest 36; 707-711, 2013
72	Hashimoto K	Sapporo Medical University, Department of Urology	Zoledronic acid but not somatostatin analogs exerts anti-tumor effects in a model of murine prostatic neuroendocrine carcinoma of the development of castration-resistant prostate cancer.	Prostate 73; 500- 511, 2013.
73	Nishida S	Sapporo Medical University, Department of Urology	Prostate cancer stem-like cells/cancer- initiating cells have an autocrine system of hepatocyte growth factor.	Cancer Sci 104; 431-436, 2013
74	Shimizu T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Methylation of a Panel of MicroRNA Genes Is a Novel Biomarker for Detection of Bladder Cancer.	Eur Urol 63; 1091- 1100, 2013
75	Hirobe M	Sapporo Medical University, Department of Urology	Establishment of an ASPL-TFE3 renal cell carcinoma cell line (S-TFE).	Cancer Biol Ther 14; 502-510, 2013
76	Kitamura H	Sapporo Medical University, Department of Urology	Nuclear, but not cytoplasmic, localization of surviving as a negative prognostic factor for survival in upper urinary tract urothelial carcinoma.	Virchows Archiv 462; 101-107, 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	Kitamura H,	Sapporo Medical University, Department of Urology	Prognostic impact of the expression of ALDH1 and SOX2 in urothelial cancer of the upper urinary tract.	Mod Pathol 26; 117-124, 2013
78	Shindo T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Long-term outcome of small, organ-confined renal cell carcinoma (RCC) is not always favourable.	BJU Int 111; 941-945, 2013
79	Ichihara K	Sapporo Medical University, Department of Urology	Transurethral prostate biopsy before radical cystectomy remains clinically relevant for decision-making on urethrectomy in patients with bladder cancer.	Int J Clin Oncol 18; 75-80, 2013
80	Shibamori K	Sapporo Medical University, Department of Urology	Metachronous testicular seminoma occurring 8 years after treatment of extragonadal nonseminomatous germ cell tumor in the retroperitoneum.	Int Cancer Conf J 2; 145-148, 2013
81	Kato S	Sapporo Medical University, Department of Urology	Resection of the inferior vena cava for urological malignancies: single-center experience.	Int J Clin Oncol 18; 905-909, 2013
82	Maehana T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Short-term functional and oncological outcomes of partial nephrectomy for renal cell carcinoma in patients with an anatomically or functionally solitary kidney: single-center experience.	Int J Clin Oncol 18; 1049-1053, 2013
83	Shindo T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Long-term outcome of small, organ-confined renal cell carcinoma is not always favorable.	BJU Int 111; 941-945, 2013.
84	Nishiyama N	Sapporo Medical University, Department of Urology	Clinicopathological analysis of patients with non-muscle-invasive bladder cancer: Prognostic value and clinical reliability of the 2004 WHO classification system.	pn J Clin Oncol 43; 1124-1131, 2013.
85	Tanaka T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Potential survival benefit of anti-apoptosis protein, survivin-derived peptide vaccine with and without interferon alpha therapy for patients with advanced or recurrent urothelial cancer: results from phase I	Clin Dev Immunol 2013; 262967, 201
86	Maehana T	Sapporo Medical University, Department of Urology	Short-term functional and oncological outcomes of partial nephrectomy for renal cell carcinoma in patients with an anatomically or functionally solitary kidney: single-center experience.	Int J Clin Oncol 18; 1049-1053, 2013.
87	Fukuta F	Sapporo Medical University, Department of Urology	Incidence and risk of treatment for benign prostatic hyperplasia in Japanese men: A 15-year longitudinal community-based study.	Int J Urol 20; 100-106, 2013.
88	Kurose M	耳鼻咽喉科	Tracheo-innominate artery fistula with severe motor and intellectual disability: incidence and therapeutic management.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2014 Aug;78(8):1348-51
89	Abe A	耳鼻咽喉科	The clinical characteristics of patients with IgG4-related disease with infiltration of the labial salivary gland by IgG4-positive cells.	Mod Rheumatol. 2014 Mar 26.

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
90	Takano K	耳鼻咽喉科	Cochlear implantation in a patient with Paget's disease.	Am J Otolaryngol. 2014 May-Jun;35(3):408-10.
91	Takano K	耳鼻咽喉科	A study of infraorbital nerve swelling associated with immunoglobulin G4 Mikulicz's disease.	Mod Rheumatol. 2014 Sep;24(5):798-801.
92	Yoshinaga T, et al.	Dept. of Neuropsychiatry, Sapporo Medical University	Effects of atelocollagen on neural stem cell function and its migrating capacity into brain in psychiatric disease model.	J Neural Transm 120(10): 1491-1498, 2013.
93	Tateoka K	放射線治療科	Analysis of the optimum internal margin for respiratory-grade radiotherapy using end-expiratory phase assessments using a motion phantom.	J Appl Clin Med Phys, 2012;13(2):3715.
94	Tateoka K	放射線治療科	Assessment of similarity measures for accurate deformable image registration.	J Nucl Med Radiat Ther, 2012;34
95	Tateoka K	放射線治療科	Uncertainty in patient set-up margin analysis in radiation therapy.	J Radiat Res, 2013;53(4):615-619.
96	Nakata K	放射線治療科	The reproducibility of patient setup for head and neck cancers treated with image-guided and intensity-modulated radiation therapies using thermoplastic immobilization device.	International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncol
97	畠中 正光	放射線診断学	Apparent diffusion coefficient is a prognostic factor of head and neck squamous cell carcinoma treated with radiotherapy	Jpn J Radiol
98	Maruyama D	麻酔科	Substrate-dependent modulation of oxidative phosphorylation in isolated mitochondria following in vitro hypoxia and reoxygenation injury.	Exp Clin Cardiol 2013; 18(2): 158-60.
99	Masuda Y	麻酔科	Regional anesthesia for a pregnant patient with symptomatic hypothyroidism.	Anesth Resus 2013; 49(3): 81-3.
100	Narimatsu E	麻酔科	Blockers of adenosine A1, but not muscarinic acetylcholine, receptors improve excessive extracellular glutamate-induced synaptic depression.	Neurosci Res 2013; 75(2): 103-11.
101	Edanaga M	麻酔科	Usefulness of Flotrac/VigileoTM combined with transesophageal echocardiography under abdominal hysterectomy for a patient complicated with moyamoya disease and hypertrophic cardiomyopathy.	Anesth Resus 2013; 49(4): 101-3.
102	Masuda Y	麻酔科	Effect of prone positioning on cannula function and impaired oxygenation during extracorporeal circulation.	J Artif Organs 2014; 17(1): 106-9.

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
103	Michifuri Y	口腔外科	Small proline-rich protein-1B is overexpressed in human oral squamous cell cancer stem-like cells and is related to their growth through activation of MAP kinase signal	Biochem Biophys Res Commun. 2013, 439:96-102
104	Yamamoto T	口腔外科	Six-transmembrane epithelial antigen of the prostate-1 plays a role for in vivo tumor growth via intercellular communication.	Exp Cell Res. 2013, 319:2617-2626
105	Shiratori K	口腔外科	Assessment of the shape of the inferior alveolar canal as a marker for increased risk of injury to the inferior alveolar nerve at third molar surgery: a prospective study.	J Oral Maxillofac Surg. 2013,71:2012-2019
106	Miyata K	救急医学	Skull Base Penetration Due to Cervical Impalement Injury: A Case Report and Review of the Literature	Open Journal of Modern Neurosurgery, 2014; 4:13-18
107	Miyata K	救急医学	Malignant hemispheric cerebral infarction associated with idiopathic systemic capillary leak syndrome.	Case Reports in Neurology,2013; 5(3):175-82.
108	Kondoh T	検査部	CD7 promotes extramedullary involvement of the B-cell acute lymphoblastic leukemia line Tanoue by enhancing integrin β 2-dependent cell adhesiveness.	Int J Oncol 2014, 45: 1073-1081.
109	Shinagawa M	検査部	Identification of a bacteriolysis-associated virulence factor against lung epithelial cells in Pseudomonas aeruginosa PAO1 cell lysate.	Microb Pathog 2014, 23: 35-40.
110	Umemori Y	検査部	Protein kinase c zeta regulates survivin expression and resists apoptosis in colon cancer.	Int J Oncol 2014, 45: 1043-1050.
111	Takahashi Y	検査部	Prophylactic and therapeutic effects Acanthopanax senticosus HARMS extract on murine collagen-induced arthritis.	Phytother Res 2014,DOI:10.1002/ptr.5157. (Epub ahead of print)
112	Murai R	検査部	Stanniocalcin-1 promotes metastasis in a human breast cancer cell line through activation of PI3K.	Clin Exp Metastasis. 2014, DOI: 10.1007/s10585-014-9668-z. (Epub ahead of
113	Nirasawa S	検査部	Significance of Serine Threonine Tyrosine Kinase 1 as a Drug Resistance Factor and Therapeutic Predictor in Acute Leukemia.	Int J Oncol 2014,DOI:10.3892/ijo.2014.2633. (Epub ahead of print)
114	Morita R	病理部	DNA methyltransferase 1 is essential for initiation of the colon cancers.	Exp Mol Pathol 94: 322-329, 2013.
115	Ogino J	病理部	Validity and reproducibility of Ki-67 assessment in gastrointestinal stromal tumors and leiomyosarcomas.	Pathol Int 63: 102-107, 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
116	Kojima Y	病理部	A case of urothelial carcinoma, lipid cell variant.	Pathol Int 63: 183-187, 2013.
117	Hasegawa T	病理部	Use of potassium channel tetramerization domain-containing 12 as a biomarker for diagnosis and prognosis of gastrointestinal stromal tumor.	Hum Pathol 44: 1271-1277, 2013.
118	Yasuda K	病理部	Ovarian cancer stem cells are enriched in side population and aldehyde dehydrogenase bright overlapping population.	PLoS One 8: e68187, 2013.
119	Sugimoto K	病理部	Multifocal and microscopic chromophobe renal cell carcinomatous lesions associated with 'capsulomas' without FCLN gene abnormality.	Pathol Int 63: 510-515, 2013.
120	Hiroyuki Takashima	Division of Radiology and Nuclear Medicine, Sapporo Medical University Hospital	Efficacy of diffusion-weighted MRI in diagnosing spinal root disorders in lumbar disc herniation.	SPINE Volume 38, Number 16, pp E998-E1002, 2013

小計

5

計

120

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	平田公一	第一外科	ハイブリッド手術室での取り組み 消化器外科領域	消外 2014; 37: 87-94.
2	平田公一	第一外科	セプシスの定義	敗血症(セプシス)救命治療の最前線 2013:44-53
3	平田公一	第一外科	肥満の疫学と最近のトピックス	Surg Fronti 2013; 20:249-254.
4	平田公一	第一外科	病院長視座から説くハイブリッド手術室でのチーム医療の実際と効果 経営的視点も含めて肥満の疫学と最近のトピックス	新医療 2013;40: 84-87.
5	水口 徹	第一外科	肝疾患に対する外科治療 高齢者に対する肝切除術の治療成績—最近のレビューと傾向スコア解析.	北外誌 2013;58(1):7-11.
6	水口 徹	第一外科	肝離断に用いるエネルギーデバイスの選択	消外 2013;36(2):155-164.
7	木村康利	第一外科	特集:“急性胆管炎・胆嚢炎・急性膵炎のガイドライン”の検証と普及. 2. 急性膵炎の診断、重症度、搬送基準について	日腹部救急医誌 2013;33:557-562
8	木村康利	第一外科	消化管神経内分泌腫瘍の診断と外科治療	消外 2013;36: 1869-1881
9	信岡隆幸	第一外科	半固形化栄養剤を用いたPEG管理	がん栄養管理完全ガイド 2014;文光堂:370-372
10	目黒 誠	第一外科	肝胆膵領域の手術部位ドレーン関連感染症.	日外感染症会誌 2013;10:233-240
11	目黒 誠	第一外科	ショック、敗血症、臓器障害における最新治療 肝切除術中FloTrac/Vigileoモニタリングの有用性について 肝切除術後肝障	Shock 2013; 27: 36-41.
12	沖田憲司	第一外科	緩和ケア 癌に伴う嘔気・嘔吐	Medicina 2013; 50:522-526
13	伊東竜哉	第一外科	膵切除後再建 膵管・空腸吻合	消外 2013;36: 1471-1477
14	巽 博臣	第一外科	電解質異常を伴う急性期重症患者に対応するCHDFの置換液の調製	日急性血浄化会誌 2013;4:17-22
15	巽 博臣	第一外科	脳血管疾患術後から熱傷、消化器術後まで 術後早期の経腸栄養管理実践症例集. “失敗しない早期経腸栄養管理”を实	ヒューマンニュートリション 2013;5:32-40
16	巽 博臣	第一外科	病院スタッフの臨床栄養についての理解度に関する検討	静脈経腸栄養 2013;28:1119-1123
17	巽 博臣	第一外科	重症患者に対する早期経腸栄養施行時の排便コントロール	静脈経腸栄養 2013;28:1245-1250
18	巽 博臣	第一外科	「エキスパートが本気で教える重症患者の栄養管理—知らない痛い目を見る!? コツとピットフォール—」IV. 病態別栄養管理. 敗血症の栄養管理～敗血症でも早期に経腸栄養を開始しよう!!	急性・重症患者ケア 2013;2:427-434
19	巽 博臣	第一外科	III. 施行の実際 9 栄養	日本急性血液浄化学会 標準マニュアル(日本急性血液浄化学会編) 2013; :164-167

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
20	巽 博臣	第一外科	第1部 ICU・CCUにおける看護. 第1章 一般的な管理・治療に伴う看護. 4. 栄養管理	ICU・CCUの超重要ポイントマスターブック(西田 修編) 2013; :46-56
21	巽 博臣	第一外科	「集中治療の最新論点-Pro & Conディベート」V章 栄養. 17. 栄養管理に中心静脈栄養法は不要である?【Pro】消化管に問題がなく経腸栄養を増量できれば中心静脈栄養は必要ない	救急集中治療 2013;25:1194-1200
22	巽 博臣	第一外科	「集中治療の最新論点-Pro & Conディベート」VI章 院内システム/教育. 19. ICUは初期研修医が手技を行う格好の場である?【Pro】ICUだからこそ安全にできる初期研修医に対する手技の手解き	救急集中治療 2013;25:1211-1221
23	巽 博臣	第一外科	5. ガイドラインの活用法. 7)ステロイド	医療スタッフのためのやさしく解説! 日本版敗血症診療ガイドライン
24	石井雅之	第一外科	70年前の手術創に生じた小腸皮膚瘻の1例	日臨外会誌 2013; 74:1543-1546
25	太田 盛道	第一外科	肝炎・肝硬変と星細胞	Surg Fronti 2013; 20:76-78
26	山口 洋志	第一外科	フォンダパリヌクスを用いた予防プロトコールの安全性	日腹部救急医誌 2013;33巻7号: 1137-1143.
27	菅 裕司, 森 暁, 箆井泰江, 肥田時征, 米田明弘, 山下利春	札幌医科大学皮膚科学講座	札幌医大病院皮膚科で治療した日光角化症43症例49病変の解析-イミキモド外用療法と液体窒素凍結療法の治療効果の比較.	日皮会誌 123: 2247-54, 2013.
28	小野一郎	札幌医科大学皮膚科学講座	皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-, 悪性黒色腫の検査診断・共焦点走査式レーザー顕微鏡.	日本臨牀71(増4): 282-9, 2013.
29	Takagi M	放射線治療科	The combination of hyperthermia or chemotherapy with Gimeracil for effective radiosensitization.	Strahlenther Onkol 2012;188:255-261.
30	Tateoka K	放射線治療科	Analysis of post-exposure density growth in radiochromic film with respect to the radiation dose.	J Radiat Res, 2012;53(2):301-305.
31	Someya M	放射線治療科	Effects of depletion of dihydropyrimidine dehydrogenase on focus formation and RPA phosphorylation.	J Radiat Res, 2012;53(2):250-256.
32	Hayashi J	放射線治療科	Analysis of Ku and XRCC4 expressions of hypopharyngeal cancer tissues and results treated with chemoradiotherapy.	Oncol Letters, 2012;4(1):151-155.
33	Miura K	放射線治療科	The combination of olaparib and camptothecin for effective radiosensitization.	Radiant Oncol, 2012;7:62
34	Nakata K	放射線治療科	Phase I study of oral S-1 and concurrent radiotherapy in patients with head and neck cancer.	J Radiat Res, 2013;54(4):679-683.
35	fukuta F	救急医学	ECPRの功罪	SHINZO Vol.46,687-690

小計

16

計

35

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 目的 ・ 構成 ・ 記録 ・ 責務 ・ 業務 ・ 提出書類	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年26回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の対象者 利益相反管理の対象 利益相反管理委員会 利益相反管理の手続 など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究における倫理性の確保について・被験者保護について・臨床研究倫理指針について	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・標準プログラムでは、研修医が医師としての第一歩を踏み出すにあたり、プライマリ・ケアを中心とした基礎的知識、技術、態度などの基本的能力を身につけ、患者の心理的、社会的側面を含む全人的医療を身につける。

・産婦人科プログラムでは、研修医が医師としてのプライマリ・ケアを中心とした基礎的知識、技術、態度などの基本的臨床能力を身につけると共に、臨床研修終了後に自立した産婦人科医となるために分娩管理及び基礎的な手術手技を習得、また産婦人科医としての専門医を前提とした知識を身につける。

・小児科プログラムでは、研修医が医師としてのプライマリ・ケアを中心とした基礎的知識、技術、態度などの基礎的臨床能力を身につけると共に、主に2年目は小児科医としての基礎的知識、技術の習得に努め、臨床研修修了後は第一線の小児科医として働くことのできる基礎を身につける。

2 研修の実績

研修医の人数	42人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山下 敏彦	整形外科	病院長	31年	
齋藤 豪	産婦人科	科長	28年	
堤 裕幸	小児科	科長	36年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 山下 敏彦
管理担当者氏名	総務課長 湯田 邦晴 / 病院課長 横山 秀視 / 医事センター長 松原 一哉 / 医療連携総合相談センター長 土橋 和文 / 薬剤部長 宮本 篤 / 医療安全推進部長 土橋 和文 / 感染制御部長 舛森 直哉 / 病院経営・管理部長 土橋 和文

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院課、各診療科、カルテ庫、各記録関係部科	病歴資料については、各診療科毎に作成し、カルテ庫で管理（一診療科一カルテ） エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	各診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	病院課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事センター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営管理部及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携・総合相談センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	体制の確保	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	の状況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院経営・管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	病院経営・管理部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	病院経営・管理部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院経営・管理部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 島本 和明	
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 湯田 邦晴	
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課	
閲覧の手続の概要		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・指針の主な内容：</p> <p>○「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 医療の安全管理に関する基本方針を定めるとともに院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について 9 項目を規定している。</p> <ul style="list-style-type: none">・H26. 1. 22 3-1の(2)「報告制度の対象とする事例」の改正・H26. 3. 25 2-1「医療事故防止対策委員会」規程の改正・H26. 3. 25 2-3「医療クオリティ審議委員会」規程の改正・H26. 6. 27 2-2「安全対策委員会」規程の改正 <p>1 総則 2 医療安全管理のための組織体制 3 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 4 安全管理のための職員研修の実施 5 医療事故発生時の対応方法 6 患者相談窓口の設置 7 安全な医療を提供するためのマニュアル・ガイドライン 8 本指針の閲覧 9 附則</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況（平成 2 5 年度）	年 2 8 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>○医療事故防止対策委員会 (定例) 1 2 回 医療事故の原因分析・再発防止策等の検討を実施</p> <p>○安全対策委員会 (定例) 1 2 回 インシデントの原因分析・再発防止策の検討、マニュアル等の検討 *各検討結果を現場へフィードバックし、周知徹底を図っている</p> <p>○リスクマネージャー連絡会議(定例) 4 回 インシデントの周知徹底を図り、注意喚起した (メール配信 2 9 回 電子メール等による各リスクマネージャーからの問い合わせ又は意見提起、これに対する回答等、双方向の連絡、医療安全情報の配信)</p>	
① 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況（平成 2 5 年度）	年 1 8 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>○全職員を対象とした安全対策研修 年 5 回 (講演会 2、医薬品 1、トピックス 2)</p> <p>○全職員を対象とした BLS・AED 講習会 年 6 回</p> <p>○その他医師、看護師・看護助手を対象とした研修会 年 7 回 (トピックス研修会 5、KYT 2)</p>	
② 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)</p> <p>○「医療事故発生・発見時の対応について」(平成 1 4 年 1 1 月 1 日 病院長決定)により事故等の区分を 8 段階にレベル分けし、院内報告の仕方や取り扱いを明らかにするとともに、再発防止策の検討方法などを規程している。 H27 年度より、オカレンス報告の導入に向けて検討を行っている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○医療安全確保のための業務改善計画書に基づく巡回点検の実施 昨年度も各部署において「業務改善計画書」を作成・提出させ、医療安全推進部長、GRM、医療事故防止対策委員が診療科等を巡回、当該計画書の実施状況を確認の上、状況に応じた指導を行った。今年度においては、昨年度に継続して全科に全員参加の形で緊急事態発生時の対応についての取り組みを企画させ、かつ、院内急変時対応検討会議及び ACLS ワーキング会議のメンバーによる他者評価も行う。さらに、診療・看護・中央部門においては同意書の取得及び管理の徹底の取り組みを企画させている。事務部門においては、緊急事態発生時における BLS・AED シミュレーショントレーニングの実施及び院内巡回による危険箇所の発見と改善への取り組みを企画させている。</p> <p>○医療安全推進週間の開催 昨年度も医療安全対策に関し、医療関係者の意識の向上、また、医療機関における組織的取組の促進などを図る目的で開催した。取組内容は、「医療安全講演会」「予測・予防型安全対策研修」「いざというときの気道確保ハンズオントレーニング」「医療安全標語・ポスター・ステッカー募集」。今年度も医療安全講演会をはじめ、各種企画を実施する予定。</p>	

○安全対策委員会において、昨年度、身体抑制、手術部位誤認防止及び侵襲的検査・処置における誤認防止調査を実施した。また、医療安全対策マニュアルポケット版第5版の発行に向けて、委員会で検討・見直しを行った。H26.4月に全職員へ配布した。今年度の取り組みとしては、例年に引き続き、身体抑制、手術部位誤認防止調査及び侵襲的検査・処置における誤認防止調査を実施する。新たな取り組みとしては、同意書の所得状況及び安全行動の巡回状況調査を行う予定。

○H26.4.30 「条件付きMRI対応電子機器装着患者のMRI撮影」に関するフロー図を作成し、全部署に周知した。(4月に周知したものの修正版を9.16に周知した)

○H26.6.4 「ホリゾン・心電図モニター・酸素ボンベ・ストレッチャー」の配置図を作成し、RM連絡会議で周知した後、AEDのポケット内に配置した。

○H26.8.11 「免疫抑制療法及び化学療法等によるB型肝炎ウイルスの再活性化防止」についてのマニュアルを策定し、全職員に周知した。

○H26.8.11 スタットコールに関して、患者等の出入りが想定されるスターボックス、北洋銀行、ファミリーマート、喫茶店、美容室・理容室にコールの趣旨を説明し、案内ポスターを掲示した。

○H26.10.15、22 「KYT研修」を開催する予定

○H26.11.26 「PICCカテーテルハンズオントレーニング」を開催する予定。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (3) 名 *H26.10.1より、専従医師を配置 ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○附属病院における安全対策の総合企画・総合調整 ○事故発生報告書及びインシデントレポートに基づく事故原因の分析及び再発防止策の検討業務 ○再発防止策等について診療科・看護室等のリスクマネージャーを通じて現場への指導 ○再発防止策のマニュアル化及びその周知徹底 ○安全管理に関する最新情報をメール配信及びリスクマネージャー連絡会議、リスクマネジメントニュースの発行を通じて全職員へ周知徹底 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容： ○「札幌医科大学附属病院院内感染対策指針」</p> <p>札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。院内感染対策についての意識の向上に、資するものである。</p> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための管理体制・組織 3. 院内感染対策のための職員研修 4. 感染症の発生状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等に対する本指針の閲覧 7. その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 48 回
<p>・ 活動の主な内容： ○院内感染防止委員会 (ICC) 定例12回 院内における感染情報、抗菌薬使用状況、コンサルテーション内容の報告。院内感染対策に関わる事項の審議と決定を、最高決定機関として行う。 ○Infection Control Team (ICT) 定例12回 院内における感染情報、抗菌薬使用状況、コンサルテーション内容の報告。院内感染対策に関わる事項の検討を、実働部隊として行う。 ○リンクドクター会議 定例12回 院内における感染情報、抗菌薬使用状況の周知をする。臨床現場における感染対策に関わる事項の情報収集と、具体策の指導を行う。 ○リンクナース会議 定例12回 院内における感染情報、手指消毒剤使用状況の周知をする。コンサルテーションに関する情報提供や、感染対策についての指導を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 42 回
<p>・ 研修の主な内容： ○病院感染対策講習会 3回 全職員を対象とする。 ○清掃委託業者における病院感染対策講習会 2回 清掃委託業者全員を、対象とする。 ○リンクドクター講習 12回 リンクドクターを、対象とする。 ○リンクナース講習 12回 リンクナースを、対象とする。 ○研修医への講義 1回 研修を受ける医師を、対象とする。 ○新採用看護師への講義 1回 新採用された看護師を、対象とする。 ○中途採用者への講義 11回 中途採用者全員を、対象とする。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)</p> <p>○電話による直接連絡と「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている。 ○検査部からの報告と感染対策ソフトで院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者等へ詳細報告を求めている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ○病院感染対策マニュアルや講習会情報を電子カルテ端末のSMILEへ掲載し、閲覧しやすくしている。 ○広報誌「CLEAN HOSPITAL」を発行し、院内における検出の情報や感染症についての注意喚起をしている。 ○当院における1年間の分離株薬剤感受性率表「アンチバイオグラム」をポケット版で作製し、抗菌薬の適切な選択をしやすくしている。 ○ICTメンバーによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている。 ○大学事業として、学生や職員のウイルス性疾患(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)の抗体価検査を、採血業務のみならず検査部と協力し円滑に実施している。 ○職員へのインフルエンザワクチン接種事業を、継続して感染制御部が所掌している。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○平成25年度トピックス研修会（全4回） 「内視鏡検査・治療時の抗凝固剤・抗血小板剤の取り扱い」 講師：第二内科講師 「エビデンスに基づいた医薬品の安全管理・危機管理2013」 講師：医薬品安全管理責任者、薬剤部長</p> <p>○平成25年度医薬品・医療機器安全管理研修会 「医薬品・医療機器の安全管理ー最近の事例を中心にー」 講師：医薬品医療機器総合機構 石井健介</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ 有 ）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集・提供）、他施設との連携</p> <p>○手順書に基づく業務評価</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○ハイリスク薬の管理・取扱い：院内周知及び管理状況の確認</p> <p>○麻薬・向精神薬の適正使用の推進：重複処方等の調査・指導（四半期毎）</p> <p>○がん化学療法：プロトコール申請及びレジメン入力の実施、薬剤部でのミキシング</p> <p>○医薬品医療機器総合機構等からの通知：該当事例について検討し改善を図る</p> <p>○医薬品の安全使用のための手順書の業務評価に基づく改善策の実施</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 個々の医療機器を適切に使用するための知識及び技能の習得又は向上を目的として、特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関して、「有効性・安全性に関する事項」、「使用方法に関する事項」、「保守点検に関する事項」、「不具合が生じた場合の対応に関する事項」、「使用に際して、特に法令上遵守すべき事項」について、年2回、定期的に研修を実施している。 また、新たに導入した医療機器についても、機器導入時に同様の研修を実施している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (○有・無)保守点検の主な内容： 平成19年3月30日付け厚生労働省医政局指導課長及び研究開発振興課長名通知に基づく7種類の医療機器のほか、高額医療機器及び患者に貸与している在宅用医療機器について、毎年度保守点検計画を策定し、当該計画に基づき保守点検を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)その他の改善のための方策の主な内容： 当院では、医療機器安全管理責任者を配置して、医療機器の安全使用のための安全管理体制を確保し、また、医療機器の添付文書や取扱説明書などの情報の整理及び管理を行うとともに、医療機器の不具合情報や安全情報等を機器製造者や販売業者などから収集し、得られた情報を担当者に適切に提供するなど、医療機器の安全使用に必要な情報の収集、改善のための方策を実践している。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関：公益財団法人 日本医療機能評価機構 時期：平成 26 年 5 月 27 日、28 日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト 内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 別紙参照	



女性外来

当院では、平成15年4月から、女性の患者さまに気軽に安心して受診していただけるよう、女性医師による「女性外来」を開設しています。

当院の女性外来の概要をご案内します。

※なお、婦人科の女性外来については、医師の確保が難しくなったことから、平成19年9月末で診療を休止しております。

女性外来の一覧

診療科	外来診察日	時間	スタッフ	受診方法
第1外科	毎週金曜日	10:00~12:00	医師 秋月 恵美	・ 予約の必要なし(当日新患) ・ 来院時に外来窓口で申し出る
第2内科	毎週火曜日	13:00~14:00	医師 村中 敦子	・ はじめに第2内科新患外来を受診。 ・ 次回から予約により女性外来を受診してください
皮膚科	不定	不定	医師 箆井 泰江	・ 希望される方は、事前に皮膚科外来に連絡し、曜日を確認してください。 ・ 来院当日は外来窓口で看護師にお伝えください

お申し込み・お問い合わせ

詳しくは下記までお問い合わせください。

第1外科外来

電話番号：011-611-2111（内線：3298） ※お問い合わせは14：00～15：00の間をお願いします。

第2内科外来

電話番号：011-611-2111（内線：3277）

皮膚科外来

電話番号：011-611-2111（内線：3469）

専門外来

臨床遺伝外来	女性外来	婦人科系	泌尿器科系	神経精神科専門外来	児童思春期こころと発達外来
緩和ケア診療	禁煙外来	HIV外来	その他の専門外来		



緩和ケア診療

緩和ケアとは

患者さまの痛み・吐き気・息苦しさなどの身体症状や、不安・抑うつなどの精神症状を和らげる治療や援助のことで、つらい症状を和らげ、患者さまやご家族が安心して入院生活が送れるようサポートします。

緩和ケアチームについて

当院では平成14年12月から、入院されている患者さまに、より専門的な医療を提供するため「緩和ケアチーム」を結成し、多職種メンバーで病棟主治医や看護師と協力して緩和ケアを行っております。



緩和ケアチームメンバー

緩和ケアチーム構成メンバー

緩和ケアチームは、下記の専門分野を担当するメンバー、臨床心理士、ソーシャルワーカー等で構成されており、必要に合わせてチーム以外の専門家にも応援を依頼しています。

身体症状の緩和

麻酔科

渡邊 昭彦 医師

麻酔科スタッフ紹介

精神症状の緩和

神経精神科

吉永 敏弘 医師

神経精神科スタッフ紹介

薬剤情報の提供

山崎 克哉 薬剤師

全体のコーディネート

佐藤 明美 看護師（がん性疼痛看護認定看護師）

[がん性疼痛看護認定看護師紹介ページ](#)

緩和ケアチームの活動を開始して、徐々に活動も軌道に乗り、現在では1日30名近い患者さまの症状緩和に携わっております。依頼内容は痛みや吐き気、不眠などが多く、患者さまからは、「痛みが楽になって助かった」「2ヶ月ぶりに眠れて、嬉しくて涙が出た」という声が聞かれ、チームの励みになっています。また、病棟の主治医や看護師からも専門的に症状を診てもらえるので助かるとの声も聞かれています。

緩和ケアチームでは病期に関係なく身体症状や精神症状の緩和を目的として活動しておりますが、緩和＝終末期医療との誤解も未だに多くあります。大学病院での緩和ケアは治療サポートとしての性格が色濃く、治療中の患者さまや家族の方々の日常生活をより充実したものとするためのサポートができればと考えております。

緩和ケアチーム診療ご希望の患者さまへ

当院に入院予定、あるいは入院中の患者のさまやご家族で緩和ケアチームの診療をご希望される方は主治医や看護師にご相談ください。病棟スタッフと協力して症状の緩和に努めます。

緩和ケア外来について

緩和ケア外来については、こちらをご覧ください。

[緩和ケア外来（麻酔科学講座サイト）](#)

リンク

[緩和医療学（麻酔科学講座サイト）](#)
[札幌医科大学 寄付講座 緩和医療学](#)

専門外来

臨床遺伝外来	女性外来	婦人科系	泌尿器科系	神経精神科専門外来	児童思春期こころと発達外来
緩和ケア診療	禁煙外来	HIV外来	その他の専門外来		

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#) [リンク](#)

札幌医科大学附属病院 | 郵便番号：060-8543 | 住所：札幌市中央区南1条西16丁目291番地 | 電話番号：011-611-2111（代表） | ファックス：011-611-218059（病院課）

Sapporo Medical University Hospital All Rights Reserved.